

## 会議結果のお知らせ

### 開催した会議の名称

別府市新図書館等整備基本計画策定委員会 第1回会議

### 開催日時

令和元年6月27日(木) 15:30~17:30

### 開催場所

別府市役所5階 大会議室

### 出席者

委員 塚田俊三、平石栄二、高橋伸子、中野伸哉、山出淳也、幸準一郎、井上正文、阿南寿和、  
稲尾隆

事務局 社会教育課長外3名、受託事業者OpenA3名

### 配布資料

- ・委員名簿
- ・次第
- ・図書館の設置及び運営上の望ましい基準  
(平成24年12月19日文部科学省告示第172号)
- ・人口減少時代に向けた社会教育の振興方策について(概要)  
(平成30年12月21日中央教育審議会答申)
- ・これまでの取組
- ・別府市新図書館等整備基本計画コンセプトシート

### 審議内容及び会議録の概要

#### 1 開会

## 2 委員紹介及び委員長選出

委員名簿に沿って委員、事務局、受託事業者を紹介した。  
全会一致にて塚田俊三委員を委員長に決定した。

## 3 審議

### (1) 事務局説明

これまでの取組み

- ・図書館法改正や中教審答申、平成30年度策定の整備構想についての説明  
新図書館等整備基本計画の今後の検討スケジュールについて
- ・基本計画取りまとめまでのスケジュールの説明
- ・委員会各回の議題（予定）についての説明  
別府市が目指す図書館について
- ・他事例紹介  
アメリカ ニューヨーク公共図書館（課題解決型）  
岩手県 紫波町図書館（ビジネス支援型）  
岡山県 瀬戸内市民図書館（交流型）  
オランダ LocHall Library（魅力創造型）
- ・別府市が目指す理念、新図書館のイメージ

### (事務局)

整備構想のなかで整備方針については十分に議論されてきたが、一部で「わかりづらい」といった声も聞かれるため、「誰のための、何のための図書館か」を今回の委員会では議論したい。整備構想で挙げたキーワードを羅列したものをお配りした。本日はこれを元に図書館の基本理念についてまとめたい。また、7/20には第2回のオープンプラットフォーム会議を開催するため、ここでも会場ディスカッションを通して市民の意見を伺う予定である。

### (委員長)

大変よくまとまっている。確かに現在、図書館の役割は変わってきている。一方で新しいアイデアであればいいというわけではなく、従来の機能も踏まえて、新たな図書館像について十分に議論できればと思う。私も議論に参加したいので、ファシリテーターを中立的な立場である OpenA にお渡ししたいがいかがでしょうか。

### (委員全員)

よいと思います。

### (ファシリテーター)

今回は第一回目なので抽象的な議論になると思われるが、前半に「だれのために、何のために」図書館を創るのかの基本理念について話したい。そして後半にそれを実現するためにどんな図書館であるかを議論したい。そして回を追うごとに方法論など議論できればと考えている。

( 2 ) 意見交換

( ファシリテーター )

今回の図書館計画についての戦略と背景、思いなどを改めて市の方から話していただいたので、硬い会議ではなく、活発なディスカッションをしていきたい。

( 委員 )

先ほど不易流行という言葉があったが、変わらないものを大事にしつつ新しい変化を積極的に取り入れたい。また、誰のための図書館という点についてはもちろん市民のためであると思うが、現在図書館を利用する人は少ない。今まで利用していない人にも改めて図書館を訪れてほしい。また、個人が知識を得るだけでなく、ネットワークを作って何かを発信できる図書館にできればよい。ある書物に、悪い図書館は蔵書をつくり、普通の図書館はサービスをつくり、いい図書館はコミュニティをつくと書かれていた。そういう図書館にしたい。

( 委員 )

作った瞬間に劣化するのではなく、劣化しない図書館。そのためには、図書館に置くべき本と流行り廃りの一過性の本を区別するとよい。市長がデジタルファーストと発言していたが、デジタル化で本をなくすということではなく、郷土の歴史資料や温泉関係の文献を検索可能なかたちにして蓄積することと考えている。その結果、例えば本が一冊もない図書館でもいいのでは。そうすると劣化することはない。

( 委員 )

「劣化しない」と「不易」というワードが上がったのが面白いなと思った。また、空間が同じでも常に変化し、時間帯によって利用者が変わるのも良い。機能は変わらないが、利用者が常になるというのも面白い。

( ファシリテーター )

「誰のために、何のために」にもう少しフォーカスした意見は如何でしょうか

( 委員 )

本が一冊もない図書館と同じく絵が一枚もない美術館もありえる。別府は温泉がメインに語られるが、実際は病院も多く、福祉に特化しているまちでもある。要介護にならないためのリハビリやワークショップに特化した美術館機能などがあっていいのではないかな。

( ファシリテーター )

本が一冊もない図書館、絵が一枚もない美術館という発言もあるが、いかがでしょうか。

( 委員 )

自分自身としては、図書館は蔵書をもって構成されるものだと考える。そして人の潜在的な欲求と顕在的な欲求に応えるべきだと思う。現代は顕在的な欲求に応えるものが多く、潜在的な欲求に出会えることが少ない。そういった場所が求められるのではないかな。また子供が成長するためには本を読むだけでなく、体験することが重要である。本を通じ言語を以って抽象的な知識を得ることができるが、実際に成長するためには何かを体験する

べきと思う。現代は見える物だけにフォーカスされすぎている気がして、セレンディピティ<sup>1</sup>を体験できることが少ないので、そういった場所を用意できるといい。また、多様な人を受け入れる場所であって欲しい。本が一冊もない図書館、絵が一枚もない美術館も面白いが、変わらない機能もあるべきと思う。

（委員）

活字文化は日本民族の存亡に関わることであるため、非常に大切である。図書館は心を耕し、人を育む場所である。本来の機能を維持しながら、新たな集いの場、賑わいの場を創出し、市民総参加のプラザにするといい。市民が長年切望している図書館建設は、多様な意見を尊重しながら、100年先を見据えた基本構想の具現化を目指していくべきである。

（委員）

昔、美容院に行った時に店員から「こういう本があるんだけど高いんだよね」という話があり、「図書館にリクエストすれば？」と言ったら「そういうことができるの？」と返ってきた。この事例のように、図書館に自分が読みたい本をリクエストしたり、「こんなことができるか」と提案したり、もっと関わることができる場所であるということを知らない人が残念ながら多い。図書館は誰にでも開かれている場所であるというPRも大事。図書館は情報を得るだけでなく、情報を得る方法を学ぶ場でもある。

（ファシリテーター）

図書館として、別府として、日本として、いろいろな視点からの話があって面白い。次に、別府がアートに対してマイノリティだった時代から現在へ昇華させていったプロセスを聞いてみたい。

（委員）

まだまだ別府でアートはマイノリティーであるという認識を持っている。先ほどの話は本がないというよりペーパーがないという意味だと思う。誰のためにというのを考えたときに市民というのは簡単で、社会包摂という言葉があるが、それが怖い。いろんなアクセスの方法があっていいと思っていて、潜在的な欲求と顕在的な欲求という言葉で踏まえると、最近は現代アートも顕在的なものが仕事やお金になりやすい。カルチャーの語源は耕すという意味で、アグリカルチャーなどがある。それは土を耕すという意味だが、心を耕すという意味もある。生きていくための拠り所。国立でも県立でもない市立ならではの文化・郷土資料なども大事。ユダヤ人はユダヤ人という人種は絶滅する可能性があったが、自分たちが生きていた証を残すことを重要視していた。それが本やアートであった。入り口は色々あってよいが、ベース、背骨の揺るぎないものがしっかりとないと、ただの機能の羅列になってしまう。

（ファシリテーター）

多様なアクセスがあるが、そこにはそれぞれの拠り所がある。それがいいなと思う。そのほかの委員さんどうでしょう。

---

<sup>1</sup> 素敵な偶然に出会ったり、予想外のものを発見すること。また、何かを探しているときに、探しているものとは別の価値があるものを偶然見つけること。

(委員)

人が育つ場であるといい。人の上に三智ありという言葉があるが、そうした3つの智により人は成長していくので、そういう場を提供していけるといい。議論する場、体験する場、作業する場などができるスペース、どれかに特化してもいいと思うが、そうしたスペースがあるといい。大分のコンパルホールに図書館があるが、私が行く理由は時間つぶし。そういったスペースは街中には探しても案外ないし、カフェに行ってもコンセントがなかったりする。そういった機能が図書館にあるといい。

(ファシリテーター)

時間潰しができるといえるのは余白がある空間という意味でいいですね。

(委員)

情報はまず大事。展示物がなくてワークショップをやるというアクションも大事。コミュニティがある場所も大事。そしてもう一つは情報を得て、次のアクションに繋げることが非常に大事。いま別府には起業をする若者が多いが、資金がなくスペースを持てなかったりする。新しい知恵に接触でき、アクションを起こし、交流を生む。それが産業を生むことにつながるということが大事。それによって新たな情報が発信できるので、これらの事業創出の場や活動の場が重要になる。それに加えて子育て世代が子供を送り出した後に意見交換できる場など、複数の要素があるといい。また、まちづくりと産業に並んで歴史も重要。歴史は根っこの部分のため、そこはキープするといい。

(ファシリテーター)

情報を引き出すアクションが産業を生み出すというワードはいい。また、安心していられるサードプレイスという言葉と時間つぶしは繋がる気がしますね。  
先ほど未来の納税者を育てると言う発言があったが、改めていかがですか。

(委員)

本そのものに価値があるのではなく、本を通じて何かを感じる。そこには人が介在している。今の情報社会はキーワードで検索するとピンポイントでヒットするが、本屋にいくと周囲のその他の本の情報も入る。そういったことが大事だと思う。未来の納税者の話ですが、いまの子ども達は調べればすべて情報がでてきてしまう。昔はそれができず、また本を読んでも十分ではなかったため、直接作者に会いに行く(社会に出て行く)必要などがあった。そういう機会が今はないので、可能性が減ったり、狭めたりしている。昔のアリストテレスの時代の図書館は知識を得て議論する場だった。そして育っていった。また重要なのは育てた子どもを外に出さずに地域に定着させていくこと。

(ファシリテーター)

本質を探しにいく場所であってほしいというのがみなさんの考えに共通する。また、産業という言葉がたくさん出ていて、そのエンジンに図書館がなるべきというのが共通しているかもしれないですね。

(委員)

皆さんの言葉を聞いて、建物自体に価値があるのではなく、そこにいる人やそこで行われる体験・サービスに価値があると感じた。みなさんの話は相反しているのではなく共通していると思うので、基本理念に落とし込んでいければいいと思う。

(ファシリテーター)

「誰のもの」というところを掘り下げたい。多様なアクセスを担保するためにはどのような図書館であるべきか。

(委員)

よく「障害者のために」というワードを聞くが、そういった線引きは不要だと思う。人は皆、年をとると身体・知的の両方で障がい者と同じことが起きるので、「将来の自分のために」という考え方が大事。障がい者はそういった将来をわかりやすくしてくれている存在。また高齢者に住みやすい町として別府が認識されると魅力的になると思う。

(ファシリテーター)

確かに健常者と障害者の間には緩やかなグラデーションしかないですね。

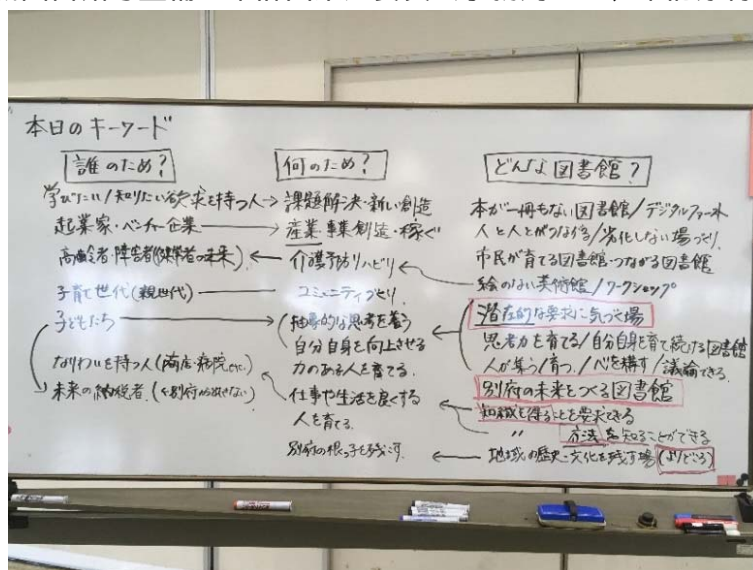
(委員)

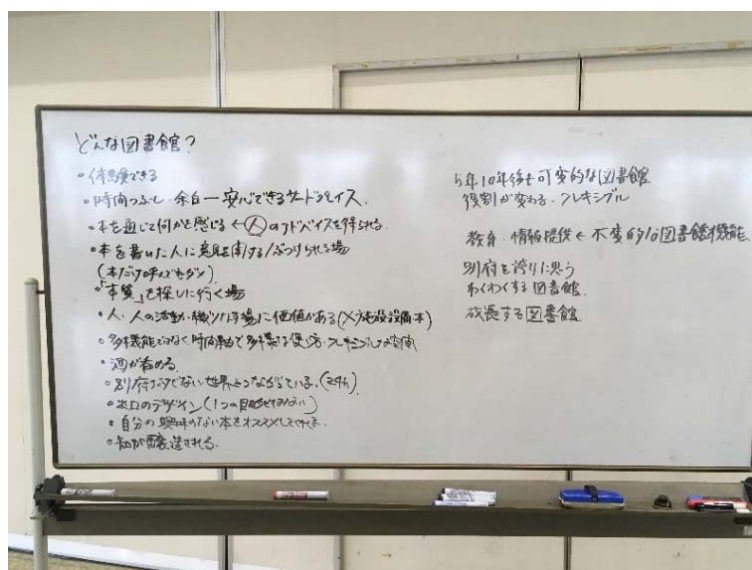
多様な人材、ダイバーシティを限られたスペースに押し込むのは難しいと思う。ただ、スペースではなく時間軸で多機能にするのは十分に考えられるため、そういった使い方を検討していくべき。時間軸でのフレキシビリティ。

(委員)

確かに時間軸で多機能を担保していくのはあり得る。昨年のオープンプラットフォーム会議では開館時間を24時間という提案もあったが、それも実現できそうですね。一旦、本日出されたキーワードを整理しよう。

第1回別府市新図書館等整備基本計画策定委員会事務局から、下記添付画像参照





(ファシリテーター)

これらのなかから、光るワードを拾えれば良いと思いますが、事務局、如何でしょうか。

(事務局)

潜在的な欲求に気付くというフレーズが印象的だった。新たな自分の一面に気付き、新たな自分の成長につながる。それが未来の図書館に繋がっていくような気がする。

(委員)

別府市の課題と強み・独自性と、新たな図書館の理念はつながっていた方がいいのか。

(委員)

課題と強みが整理された図書館の理念があるのが望ましい。

(委員)

たしかにいろんなフレーズがあり、いろんな人が別々の場所で行なっている行動全てをつなぎ合わせることは難しいが、それぞれが個々につながっているのが大事。そして交わる場所で交われればよい。

(ファシリテーター)

拠り所という単語が心にのこった。多様性がある別府だからこそその拠り所。

(委員)

別府の図書館は別府にあるだけでなく、世界につながっていくべき。24時間、365日稼働してほしい。今の働き方のように1つの場所に集結するのではなく、各地に分散していてもいい。

(委員)

働き方改革時代にふさわしいですね。今日感じたのは、図書館は「〇〇である」と一言でいうのが難しいということ。建築家の青木さんが原っぱという言葉を使っていたが、いろいろな人がアクセスできることに加えて図書館はそこに知が集結している。入り口もだが、出口のデザインが重要。空港のように場所がハブであり、いろいろな人がアクセスして、出口が単一でなく多彩であるような空間がいいと思われる。

(委員)

たしか、北海道の本屋さんに1年待ちの本屋さんがあり、あるワードを送るとその人にとって、今後出会わないであろう、その一方で好きであろう本がチョイスしてくれるところがある。自分が興味のあるものに対しては自分でアクセスできるが、この本屋のようにたまたま新たな知にアクセスできるような空間だといい。

(委員)

やはり産業や歴史、そして起業につながるということが大事。インキュベーションにより醸造していく。そしてコミュニケーションが生まれる空間が重要。

(委員)

それぞれの項目での多様性が大事。本日されている議論は5年後、10年後には異なる議論になっていると思われる。機能を固定せず、時間によって可変できることが大事。固定化されるといつかは使われなくなってしまふ。

(委員)

グランドデザインでもアメーバ状とあったが、フレキシブルなのは重要ですね。

(委員)

図書館の教育機能と情報提供機能は変わらない。そして図書館に来させるのか、行かせるのか。忘れてはならないのは人が育つ場であること。

(委員)

別府に生まれて育ったが、当時の別府にいかにかたくさんの方がいて、おしゃれな町だったかをいまの若い人たちに伝えても信じてくれない。自分と同世代は別府が好き。別府市民は自虐的に別府を語る人が多いが、それは愛情の裏返しだと思う。図書館は基本的には教育施設だと思うが、教育は堅苦しい場所ではなく、ワクワクして遊び心のある場だと思うので、そういったことをうまく取り入れていただきたい。

(委員)

コンテンツの羅列に終わってはいけないという発言が印象的だった。県立美術館の建設当時は、「成長する美術館」というコンセプトもあったので、「成長する図書館」であってもいい。



(委員)

新しい図書館の名称はまだ決まっていない。今は図書館等と言っているの、この委員会で見つけられるといい。また敷居が高くなく、潜在的な欲求を引き出せる図書館を目指したい。そして時間軸がやはりキーワードではないか。

(ファシリテーター)

今回はすごく拡張された会議だった。次回までには本日出されたワードを事務局でまとめて皆さんと共有する。

#### 4 報告

「オープンプラットフォーム会議 Vol.2 について」

(事務局)

7月20日(土)15時から「オープンプラットフォーム会議 Vol.2」を開催する。テーマは「図書館について」である。

#### 5 その他

特になし

#### 6 閉会

次回開催予定日の告知：8/26(木)午後(時間未定)